

研究機関名：旭川医科大学

承認番号	
課題名	マイクロ RNA およびメッセンジャーRNA を用いた新規消化器癌診断法の評価研究
研究期間	西暦 2016年 7月 22日 ~ 2021年 3月 31日
研究の対象	1980年1月~2017年4月に当院で消化器腫瘍に対して手術あるいは内視鏡治療を受けられた方
利用する試料・情報の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 診療情報（詳細： ） <input checked="" type="checkbox"/> 手術、検査等で採取した組織（対象臓器等名：食道、胃、大腸、膵臓、肝臓等） <input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> その他（ ）
外部への試料・情報提供	<input type="checkbox"/> 自施設のみで利用 <input checked="" type="checkbox"/> 多施設共同研究グループ内（提供先：米国ベイラー大学メディカルセンター） （提供方法：組織検体の一部と診療情報を共同研究機関である米国ベイラー大学メディカルセンターへ匿名化した状態で郵送し、解析を行います。） <input type="checkbox"/> その他（提供先： ）（提供方法： ）
研究組織	旭川医科大学 藤谷幹浩 米国ベイラー大学メディカルセンター Ajay Goel
研究の意義、目的	<p>癌の発生や進行には、遺伝子変異などの異常に加え、リボ核酸（RNA）による影響が深く関係していることが明らかにされています。RNAには、タンパク質を合成したり、タンパク質を介して情報を伝達する役割があります。腫瘍の発生臓器や進行の程度によって、特定の小さなRNA（マイクロRNA、以下miRNA）、メッセンジャーRNA（mRNA）やRNAがくっつくタンパク質の発現異常が認められることから、RNAを確認することは、癌の早期診断への応用が期待されています。</p> <p>そこで本研究では、これまでに当院にて治療を受けられた消化器腫瘍（癌やポリープなど）の患者様の組織より、miRNA、mRNAを回収し、解析することで新規の消化器癌診断法を確立することを目的としています。新規の診断法が確立すれば、消化器癌を早期に診断できるようになり、さらに治療の効果判定も適切に行うことにより、より安全で効果的な治療を受けて頂くことが可能となると考えています。</p>
研究の方法	<p>対象期間に当院にて消化器腫瘍（食道、胃、小腸、大腸、膵臓、肝臓など）に対する手術や内視鏡的切除を行った患者様の腫瘍組織の標本より miRNA および mRNA を回収し、発現の解析を行います。その結果と診療情報を比較・分析し、新規の消化器癌診断マーカーとなり得る項目を同定します。</p> <p>○診療情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者基本情報（年齢，性別，既往歴，嗜好など） ・主病名，合併症

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 期間中の疾患イベント ・ 治療方法（手術，化学療法の内容・投与量・投与期間など） ・ 治療効果 ・ 生存期間 ・ 病変（位置、組織型、大きさ、前癌病変の有無など） ・ 血液学的所見 ・ その他
その他	本研究は、アメリカのベイラー大学メディカルセンターとの共同研究です。
お問い合わせ先	<p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。</p> <p>また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。</p> <p>照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：</p> <p>住所：北海道旭川市緑が丘東2条1丁目1番1号</p> <p>所属：旭川医科大学内科学講座 消化器・血液腫瘍内科学分野</p> <p>氏名：藤谷 幹浩（研究責任者）</p> <p>電話番号：(0166) 68-2462</p> <p>研究代表者：旭川医科大学内科学講座 消化器・血液腫瘍内科学分野 藤谷幹浩</p>